

2023年11月2日

2023年度上半期 決算説明会 Q&A

No.1	Q. 3Q以降の売上が増える理由は？ 競合と比べると伸びが強いが、ローム独自の要因があるのか？
	A. 自動車向けのLSIとパワーデバイスが伸びる。上期は顧客の在庫調整の影響が出たが、それが解消されることで、ロームへの引合いが増える。また新規案件が立ち上がる事での需要増を見込んでいる。
No.2	Q. 期末に向けての在庫設計は？
	A. 汎用品については期初から在庫の過剰感があり、稼働率を下げ在庫を落としている。一方でパワーデバイスやアナログLSIの一部注力製品については引き続き在庫を積み増す。売上の伸びがあるため、期末の回転月数は減少する見通し。
No.3	Q. 汎用品は過剰感があるとのことだが、価格が下落したものはあるか？
	A. 昨年に値上げを実施し、その水準を維持している。
No.4	Q. 上期のSiCの売上進捗と国籍別の構成比は？
	A. 年間400億円の見立てに対して、半分近くの売上を達成した。海外が9割を占めるが、国籍別では中国、欧州、米州の順に金額が大きい。
No.5	Q. SiCの8インチ化の進捗は？
	A. 基板については、独SiCrystalで量産開始している。デバイスについては、これから1年をかけて筑後工場を開発を進める。半年前の報告から遅滞なく順調に進捗している。
No.6	Q. SiCの8インチ基板工程でボトルネックに感じる点は？ 外販のスケジュールは？
	A. 技術的なボトルネックはないが、キャパシティがまだ十分ではないので増強している最中。8インチ基板は、社内用に優先して充てる。外販は2027~28年度ごろから開始したい。
No.7	Q. 2028年度以降のSiCの売上構成はどう変わる？（国籍別構成比、デバイスの世代、基板サイズetc）
	A. 国籍別構成比は日本の比率が伸びてバランスが取れてくる。デバイスの世代は、現行のGen4からGen5に置き換わる。基板サイズは半数以上が8インチに置き換わり、2030年度には7割近くが8インチとなる。
No.8	Q. 国富の宮崎第二工場でSiC基板を生産予定とコメント。国内向けは宮崎、海外向けは独SiCrystalという形で基板製造のすみ分けを行う？
	A. 今のところその意図はない。生産能力の配分やBCPの要素を考慮に入れて今後検討する。
No.9	Q. 中国がEV市場を先導している状況だが、現時点の課題と取り組みは？ 価格引下げの要請はあるか？
	A. パイプラインにもあるとおり、2025年度は中国の比率が大きいですが、それ以降は欧州・米州・日本の比率が上がっていく。中国勢の競合状況としては、基板メーカーの存在感は出始めているが、デバイスメーカーはまだない。価格引下げの要請は常に受けるが、直近の状況として大きく変化した印象はない。2025年までは供給能力が需要に追いついていない状況なので、キャパシティを少しでも上げてお客様の要望に応える。
No.10	Q. 競合他社のように中国製のSiC基板を利用する可能性はあるか？
	A. 中国製のSiC基板の評価も行っており、将来的に利用する可能性はゼロではない。QCDの観点で総合的に検討していく。
No.11	Q. ロームのGaN事業の取り組みは？
	A. GaNは高周波の用途に向けたデバイスであり、SiCとは棲み分けて使用され、パワーデバイスのポートフォリオを広げるために取り組んでいる。例えばLSIとGaNの組み合わせによるソリューション提案により、市場でのポテンシャルを上げられると考える。ACアダプタやサーバー・基地局の電源などに使用されるが、将来的には自動車のOBC等にも採用される可能性がある。